

エダマメ新品種 つきよね 『月夜音 (SB1015)』 の産地事例紹介

雪印種苗(株)
畑作園芸本部 営業課

エダマメは子供が好きな野菜の第1位との食品会社の調査報告もあるように、ビールを飲む大人だけではなく、幅広い世代に愛されている野菜です。千葉県のエダマメ作付面積は1,060ha(平成17年野菜生産出荷統計より)で、中でも野田市は、エダマメのリキュール酒や和菓子などを生産する「枝豆の町」として知られるほど、全国でも有名なエダマメの産地です(平成16年には市町村別出荷量第1位、同18年現在全国3位)。

この度、弊社のエダマメ極早生新品種『月夜音 (SB1015)』を栽培していただきましたのでご紹介いたします。

JAちば県北は千葉県の北西部に位置し、埼玉県、茨城県に隣接した野田市を管内に持つ農協で、エダマメ栽培は2月から5月下旬頃まで播種をおこないます。野田市では良いエダマメを作るには土作りも欠かせないとして、街路樹を剪定した時に出る枝や落ち葉などを利用し、繊維質たっぷりのたい肥を作り農家に提供しており、市を挙げてエダマメの産地作りを積極的に支援しています。

今回御紹介する同農協の旭支店管内旭出荷組合は、オリジナルブランド『なつみちゃん』として、良食味のエダマメを東京や埼玉の近郊市場に出荷して、たいへん高い評価を獲得してい

ます。現在の主要品種は弊社中早生種の『サヤムスメ』で、本年7月にNHKの「産地発！食べ物一直線」の中でも紹介されました。

旭出荷組合では良いエダマメを早期から出荷していくことを目標に、トンネル栽培で前進化させる管理技術の確立に以前より取り組んでいます。その取り組みの中で、早期出荷用品種として『月夜音』の導入を進めていただきました。

早まきの作型では低温条件下の播種、栽培となるため、トンネル被覆の工夫をおこない収量確保を目指しますが、その年の気候条件によってはどうしても着莢性の面での問題が生じてし



▲エダマメトンネル栽培風景



▲エダマメ集荷場での出荷風景



▲『月夜音』の荷姿

まいます。当出荷組合では一昨年から低温着莢性にすぐれる『月夜音』の試験導入を進めていただき、ここ数年気温条件が変動することが多い中、概ね良好な結果が得られました。特に、本品種は極早生品種の中で食味がすぐれており、多収である点も評価していた

だいております。

エダマメの食味を問われる状況の中、食味の良いエダマメを継続的に出荷していくことが今後の課題となっています。当組合では、生産者の方々がお互い同土栽培方法や食味を高めしていく方法などを絶えず情報交換をおこ

なって研究しており、高品質のエダマメを安定出荷していけるよう熱心に取り組んでいます。



▲『月夜音』の草姿



▲ 旭出荷組合の皆さんおよび農協、出荷先市場関係者の方々